

専修学校における学校評価ガイドラインに示された評価項目に沿って実施された自己評価に対して、下記日時に学校関係者評価会議を開催し、評価を行った。

■学校関係者評価会議

開催日時 2022年7月1日(金) 16:00~17:30

開催場所 大阪情報コンピュータ高等専修学校

■学校関係者評価委員

- ・自己評価関係者 校長、学校法人常務理事、教頭、教務主任、入試広報主任
- ・教育関係者 科学技術学園高等学校大阪分室長、大阪市立桃谷中学校校長
- ・卒業生 第32期卒業生
- ・在校生保護者 3学年生徒保護者

■自己評価に対する学校関係者評価及び意見

1. 学校の教育方針

本校は教育基本法および学校教育法に従い、中学校における基礎の上に、一般的な教養を高めるとともに情報処理技術に必要な専門知識と技術を習得させ、生徒の人格の陶冶を図ることを目的とする。

また、①コンピュータ教育を中心に学力の向上をはかる。②一人ひとりの生徒を大切に育てる。③いじめ・差別・暴力を許さない豊かな人間性を身につける。④確かな進路を選択する。の4点を教育方針とし、目指すべき学校像を「コンピュータ教育と資格のOICと呼ばれる地位を確立すること、育成する生徒像を「社会の発展に資することができ、多様な価値観を認め、自律的に活躍できる人材」とする。
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
 - ① 各種検定試験の合格者の増大を図り、生徒の創作意欲を育て作品制作力の向上を目指す。
 - ② 進級率の向上を目指す。
 - ③ 要支援生徒や不登校の経験を持つ生徒の学校への定着を図る。
 - ④ 出席率の向上を目指す。
 - ⑤ 進路指導を強化する。
 - ⑥ 教職員の学校運営力向上と教員の教師力向上を図る。
 - ⑦ 教育環境の更なる整備を目指す。
 - ⑧ 生徒募集の目標を達成する。
3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標	自己評価	学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか 	<p>① 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育方針、教育指導の特色、および目指すべき学校像、育成する生徒像等はパンフレットやホームページへの記載はもとより、オープンスクール・学校説明会を通じた生徒募集段階から入学後の日常の場面において生徒・保護者・教員に周知されていると言える。 ・目指すべき学校像、および育成する生徒像について協議を重ね内容を深めてきた。 ・2021年度はボーカロイド・ムービーコースを含む新4コース開始から5年目を迎え、全面オンライン、ハイブリッド型、全面対面の3形態の授業を通じて専門科目の授業内容に工夫を凝らし、教育の質確保に努めた。 <p>② 今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき学校像および育成人材像について内容を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果は適切である
<p>(2) 学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか 	<p>① 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に事業計画を策定し、学期ごとの総括も含め年間を通じてPDCAサイクルに沿った運営が行われている。なお、運営全般を通じて常勤教職員全員が関わり、校務分掌に従って目標を理解し役割と責任を果たしている。 ・新型コロナウイルスの感染状況に関してグループ校である大阪情報コンピュータ専門学校との合同による対策会議において情勢認識を共有して感染予防対策の徹底を図りながら、多様な形態による授業を実施するとともに各種学校行事に関しても可能な形態による活動を模索・実施した。 ・教育活動等に関する情報は自己評価報告書、および学校関係者評価報告書をホームページ上で公開している。 ・教務システムの効率化に向け、改善作業を継続している。 <p>② 今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務関連システムの効率化に向けた改善作業を更に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果は適切である ・情報システム化および業務効率化の課題については引き続き改善を進める必要がある。
<p>(3) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視 	<p>① 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・教育方針に沿った形で適切な教育課程が編成されており、事業計画において学年及び4コース制の特長と内容を年度ごとに更新・確認している。教育課程の実施にあたってはすべての科目のシラバスを作成し、教科チームを中心に適宜教科会議を持って進捗・内容をチェックし、2学期および学年末に全体会議を開催して実施状況を確認した。 ・全面オンライン、ハイブリッド型、全面対面の3形態の授業を通じて所定の授業時間を確保した。 ・2020年度以降のコロナ禍における経験から教員各々が多様な授業形態に対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果は適切である

<p>点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか 	<p>する能力を身につけてきたことにより、専門科目を中心に授業内容に工夫を凝らし、教育の質確保に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習姿勢の定着を図るため、中学校程度の基礎的な学習を内容としたプリント学習「得学」を朝礼（SHR）時の5分程度の時間を利用して実施し、検定試験前にはコロナ禍で指導時間が少なくなっていた検定試験に向けた学習機会として活用した。 ・全学年でキャリア・デザインの授業を実施し、社会常識の習得と卒業後の進路を展望する上で修得すべき勤労観、職業観を育成している。 ・全体的な授業力向上を目指して実施してきた全常勤教職員による全ての講師の授業点検・評価についてはコロナ禍の影響により2020年度は実施できなかったが、2021年度は1学期ハイブリッド授業期間にオンライン授業のスキル評価を加味した内容で実施した。また、生徒による授業アンケートも1・2学期共に実施し、その結果を全体会議において開示して各講師の授業力量向上のための参考材料とした。 ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定に関しては、年度当初に「スクールガイダンス」を全生徒に配布し、その中で基本的な基準を明示している。 ・検定試験合格者の増大を方針として掲げ、年間合格目標を立てて指導にあたっている。校内で実施される検定試験は日常の授業において指導されている他、検定対策補習も年間計画を立てて実施している。 ・ICT活力量の向上を図るため常勤教員が研修会に積極的に参加した。また、オンライン授業・ハイブリッド授業実施に際してのICT機器の操作やデジタル教材等の準備・使用方法などの情報を共有し授業担当者のスキル向上を図った。 ・関連分野の専門的な指導力を有した教員を継続して確保していく必要がある。 <p>② 今後の改善方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて教員採用に関わる広報を行うなど、優秀な人材と接点を持つ機会を増やしつつ、現職教員については指導力強化に向けた研修等の取組を活性化していく。 	
(4) 生徒指導等		
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立のための取組が行われているか ・生徒の安全管理のための取組等(災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある生徒等への支援など)が行われているか ・生徒・保護者からの相談体制が整備されているか ・進学・就職指導にかかる支援体制は整備されているか 	<p>① 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度は全面対面授業期間であった10月～11月の全体出席率平均が2019年度の年間出席率平均を若干上回った。 ・単車に関しては「3ナイ運動(①単車の免許を取らない。②単車に乗らない(乗せてもらわない)。③単車を買わない)」を実施しており、入学時点から生徒・保護者に周知徹底を図っている。 ・発達障がいをはじめとした要支援生徒について教職員全体で情報を共有し、その上で、7種類の支援種別を設定して担任による日常の学校生活を中心とした指導や、スクールカウンセラーによるカウンセリング(2021年度は16名を対象に計106回実施)を中心とした指導を行うとともに、ケース会議を実施して教職員全体での対応方法などを確認してきた。特に新入生については配慮を要する生徒の資料を4月初旬に作成し、全教職員が共有して指導にあたった。 ・不登校生徒の保護者の参加による「O i Cカフェ(不登校を考える会)」を計2回開催し、不登校生徒の状況把握と状況改善を図るとともに、保護者間の意見交流・親睦の場とした。 ・進学・就職に係る支援については進路指導部がキャリア教育と連携する形で学年ごとの課題を設定し当該学年と協力しながら進め、コロナ禍の中であったがほぼ2019年度以前のスケジュールで取り組むことができた。また、キャリア・デザイン授業においては2学年を対象に生野税務署による「租税教室」をオンライン形式で実施した。 <p>② 今後の改善方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要支援生徒への対応等について引き続き体制を整備していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果は適切である ・学校が多様化し生徒にとって選択肢が多いのは非常に良いこと。大阪府の私学助成についても保護者は関心を寄せている。特に大阪府はある程度均一化されている。専修学校に通い通信で高卒資格を取る方法もあるし、個人個人自分に合っている進路を選択することが重要。OICのカラーをできる限り発信していただきたい。中学校は個に応じたていねいな進路指導を必要とされている。これだけ多様な学びがあるし学びの多様性がこれからはもっと大事になっていくだろう。
(5) 特別活動等		
<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか ・保護者会等と連携した活動を推進しているか 	<p>① 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、生徒の健康と安全を最優先させるため、クラブ活動および特別課外活動は基本的に中止としたが、「全国高校eスポーツ選手権」に関しては2020年度に続き参加することができた。 ・あらゆる機会を通じて学校と保護者、および保護者間の親睦を図っている。 ・生徒の課外活動等に関しては新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し当面慎重な対応が求められる。 <p>② 今後の改善方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康と安全を最優先とし、実施可能な課外活動に対しては支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果は適切である
(6) 学修成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・進学率や就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 	<p>① 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と3学年担任団が連携して進学率・就職率の向上に取り組んだ。大阪情報コンピュータ専門学校35名、大阪経済法科大学5名をはじめ63名の生徒が進学し、15名が就職した。 ・2021年度の4検定(情報処理・ビジネス文書実務・英語・簿記)においてはすべて3級以上の受験としたところ計228名が合格した。また、4検定以外では3年生1名がITパスポート試験に合格した他、MIDI検定試験に18名が合格した。 ・2021年度の校内展示会は見学者を分散する形で12月18日に実施し、363点が出展された。 ・科学技術学園高等学校(科技高)主催の美術展に54作品を出展し10点が入賞した。また、この内の優秀作品4点を含めた5点を大阪府高等学校定時制 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果は適切である ・オンライン授業の間、子どもがどれだけ集中できているかわからなかったが、コロナ禍の中登校するしんどさもあったので通学のストレスから解放されて静かに快適に過ごせたという意味では良かったかもしれない。 ・オンライン授業後学校での対面が始まった際、生徒の出席率が良かった。普段見ない生徒も

	<p>通信制生徒秋季発表大会に出展し2点が入賞、2点が奨励賞を獲得した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により前年同様 WEB イベントとなった 2021 年度の「まんが甲子園」予選に桃谷校生徒 5 名が出展し、本選進出を逃した約 300 校中 10 校に与えられる「アイシー賞」を獲得した。 ・生野税務署による「税務署が実施する広報のポスター」制作では 5 年連続で生徒作品が採用され、作品は 2021 年 12 月末から 2022 年 3 月まで生野税務署管内の広報板・官公庁掲示板等約 150 ヶ所に掲示された。 ・一人ひとりを大切にするという教育方針のもと、不登校生徒や低学力生徒など進級困難生徒に対しての指導が展開されている。また、生活指導上の問題が起こった場合においても粘り強く指導を行っており、これらの取り組みを通じて退学率の低減が図られてきた。 ・グループ校である大阪情報コンピュータ専門学校と姉妹校である大阪経済法科大学への進学者については定例的な情報交換の機会を持ち、進学者の資格取得状況などの把握に努めている。 ・生徒を対象とした進路講演会に、社会で活躍する卒業生を講師として招き、在校生の進路選択に活かしている。 <p>② 今後の改善方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育機関への進学率を向上させ、将来の専門分野への就職につなげていくことを基本としながら、「高校」新卒としての就職活動にも力を入れていく。 	<p>登校して学校生活に馴染んでいた様子がうかがえた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすいスライド教材を作成・活用する教員も増えており、電子教科書の増加など教授方法は様変わりしてきた。校内で調査したところほぼすべての家庭が Wi-Fi を利用している。ただし、スマホしか持っていない生徒が多く、課題となっている。
(7) 生徒支援		
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対する経済的な支援体制は整備されているか ・生徒の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・生徒の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか 	<p>① 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者に対する経済的な支援として、利用可能な奨学金について案内し、また、授業料についての相談に応えるなど柔軟に対応してきた。 ・生徒に対する健康診断はコロナ禍における感染予防を最優先して 4 月から 5 月に分散する形で実施した。また、健康管理に関してはコロナ対策を基軸に本校で策定した感染予防マニュアルに基づき、「健康観察シート」を活用しつつ、必要に応じて専門医療機関と協議して対応してきた。 ・コロナ禍の中、全生徒が参加する学校行事（球技大会、校外学習、体育祭、ボウリング大会、芸術鑑賞）および希望参加型の課外活動（夏季 O I C キャンプ、冬季スキーキャンプ）は中止した。文化祭に関しては校内企画を中止し、学外企画については鑑賞を中心とした文化行事として実施した。 ・不登校や生活指導上の問題行動においては生徒の生活環境が影響している場合も多く、クラス担任を中心に積極的な家庭訪問を実施する中で状況を把握し、保護者と連携してその改善を図ってきた。 ・卒業生の多くが進学する大阪情報コンピュータ専門学校（専門課程）との間で定期協議を持ち、教育連携、進路指導連携を進めている。 <p>② 今後の改善方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ校である大阪情報コンピュータ専門学校（専門課程）との高専連携を更に深め、専門教育、キャリア教育担当者間での情報交流と論議を活発にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果は適切である
(8) 教育環境		
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・防災に対する体制は整備されているか 	<p>① 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専修学校設置基準に基づき、生徒が学習に専念できる教育環境が整備・維持されている。 ・新型コロナウイルスの感染防止対策として、設備面では玄関ホールのサーマルカメラ、すべての教職員および生徒が使用する机の飛沫防止パーテーション、全教室ドア前の消毒液ディスペンサー等を設置し、密閉・密集・密接の 3 密回避と生徒・教職員および業者による徹底した消毒体制を整え、感染症防止のための教職員・生徒・保護者に向けた啓発と雰囲気醸成のため掲示物を貼付し案内・説明に努めた。このような取り組みを通じて年間を通じて校内での生徒、教職員の感染者発生を抑止することができた。 ・ICT/IoT 技術の急速な普及に対応するべく校内 LAN 配線および無線アクセスポイントを更新・整理するとともに AD サーバをはじめとした基幹ネットワーク機器を更新し、インターネット利用を含むネットワーク環境・教育環境・学校業務環境の整備・充実を図った。 ・消防計画に基づき、1 2 月 1 6 日、消防機器点検とともに全教職員による消火訓練および避難誘導訓練を実施した。 <p>② 今後の改善方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し、政府・大阪府の対応を踏まえ適切な感染予防対策を講じる。 ・2 0 2 2 年度・2 0 2 3 年度の教育環境整備を検討し実施していく。 ・大規模災害を視野に入れた避難訓練（防災訓練）の内容について検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果は適切である
(9) 生徒の受入れ募集		
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか ・生徒募集活動は、適正に行われているか ・生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか 	<p>① 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校等に対してはパンフレット、Web サイト等を通じて、本校の教育方針、4 コース制カリキュラムと内容、進路状況、国・府の助成制度等を網羅した資料を作成し丁寧な情報提供を行っている。 ・本校定員を確保するべく適切な生徒募集活動を行ってきた。オープンスクール実施にあたっては適切な新型コロナウイルス感染症対策をとった。 ・入学金・授業料・施設設備費などの学納金に関しては教育内容や教育環境に照らして妥当であるかを検討し決定している。 ・本校の生徒受け入れ募集に係る実情に合わせ、入学定員を 93 名、総生徒数を 279 名とする学則変更を行った。 ・中学校等に対するより分かりやすい情報提供の方法を引き続き考案していく必要がある。 <p>② 今後の改善方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な媒体および機会を利用した情報提供の方法を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果は適切である

(10) 財務		
<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか 	<p>① 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生徒等納付金収入を基礎とした学校の財務基盤は中長期的に安定している。量入制出の原則に基づき、教育環境の整備・充実を進めると同時に、徹底した業務の見直し・経費節減を図っている。 ・毎年10月より、予算編成事務局の下で次年度の事業計画案と予算案の策定を進め、3月に評議員会への諮問と理事会の承認を経た上で、厳格な予算執行を行っており、予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。 ・学校法人及び学校の会計は、学校法人会計基準に則り、適切に処理されている。私立学校法第37条第3項に基づく監事の監査と、私立学校振興助成法第14条第3項に基づく独立監査人（公認会計士）の監査を受けており、会計監査は適正に行われている。 ・収支計算書・財産目録・監査報告書等を学校のホームページに掲載している。また、私立学校法第47条第2項に基づき、利害関係人から請求があった場合には、計算書類等を閲覧に供する体制を整備している。 ・引き続き入学者の安定的確保と、更なる業務の見直し・経費節減を進めることが課題である。 <p>② 今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するため、創意工夫を更に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果は適切である
(11) 法令等の遵守		
<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか 	<p>① 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法、学校教育法、専修学校設置基準をはじめとする各種法令を遵守している。 ・2017年に更新した「情報セキュリティ規定」、および「いじめ防止対策基本方針」内の「ネットを使ったいじめの未然防止」の規定に基づき、教職員および生徒に対して個人情報の取扱いに関する留意点について確認し、管理の徹底が図られている。 ・自己点検・自己評価は2008年度から独自に実施してきており、2011年度からは学校関係者評価とともに公開している。 ・自己評価および学校関係者評価に基づく問題点改善を更に進める。 <p>② 今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価体制およびPDCAサイクルを更に定着させ、着実な問題点改善につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果は適切である
(12) 社会貢献・地域貢献		
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか 	<p>① 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生野税務署の確定申告ポスターに5年連続で採用され、同ポスターは生野区内約150ヶ所で掲示された。 ・大阪府下の中学校で実施された「職業講話」等で、ゲーム制作等コンピュータ関連の職業について「出前授業」を行い、中学校のキャリア教育の取り組みに協力してきた。 ・大阪市生野区役所が「生野区の子どもの学び」を支援し、キャリア教育や体験活動の充実、学校支援を推進するために多様な企業・団体等に呼びかけた「IKUNO未来教育ネットワーク」に登録し、体験機会の提供（ゲーム、CG、動画等の制作）、ICT教育支援（WORD、EXCEL、リテラシー等）、課外活動の支援（パソコン部等活動）に協力することとした。 <p>② 今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲での社会貢献・地域貢献を模索していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果は適切である

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2020年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、各評価項目は概ね「ほぼ適切」以上の評価であった。今後も本校における建学の理念、教育基本方針および「目指すべき学校像」「育成する生徒像」を土台としつつ、学校関係者評価に基づく課題等の改善を進めていく。